

会 議 録

内容承認	公開・ 非公開	<開催日> 平成 29 年 6 月 12 日 (月)	<傍聴人数> 7 名
米澤会長		<時 間> 15:30~17:30	<傍聴室>
阪口委員 高森委員		<場 所> 岸和田市職員会館 2 階	岸和田市職員会館 2 階
承認	公開	大会議室	大会議室

<名称> 第 11 回 (平成 29 年度第 1 回) 岸和田市子ども・子育て会議

<出席者>

(岸和田市子ども・子育て会議委員出欠状況) ○は出席、■は欠席

江龍	近江	岡野	熊取	阪口	坂本	高森	津山	寺田
○	■	■	○	○	■	○	○	○
中川(勉)	中川(麗)	浪江	林	森下	藪	山下	米澤	
○	○	○	■	○	○	○	○	

(事務局)

寒川保健部長、山本子育て応援部長、小山教育総務部長、谷学校教育部長、濱上生涯学習部長、濱崎健康推進課長、永島子育て支援課長、宮内子育て給付課長、池宮子育て施設課長、山田教育総務部総務課長、山本学校管理課長、松村学校教育課長、西尾生涯学習課長他 11 名

<議題等>

- 1 開会
- 2 新委員・事務局の紹介
- 3 議題
 - (1) 現時点の人口動態等について
 - (2) 中間年の見直しについて
 - (3) 教育・保育の量の見込みと確保方策について
 - － 中間年の見直し(案)について －
 - (4) 地域子ども・子育て支援事業について
 - － 中間年の見直し(案)について －
 - (5) その他

<概要>

■新委員紹介・事務局紹介

■議題3について事務局から説明

(1) 現時点の人口動態等についての説明

(2) 中間年の見直しについての説明

(3) 教育・保育の量の見込みと確保方策についての説明

— 中間年の見直し(案)について —

(4) 地域子ども・子育て支援事業についての説明

— 中間年の見直し(案)について —

■議題3について委員からの質疑・意見交換

■事務局から次回開催について

■意見交換(概要)

【議 長】

では、議事に入らせていただきます。まず、岸和田市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況につきまして、お手元の議事次第に従って、事務局の方から説明をいただきます。なお、お手元の議題(1)現時点の人口動態等についてというところから(4)地域子ども・子育て支援事業について、この4つの議題につきまして最初に事務局の方から一括してご説明をいただき、その後、委員の皆様方からご質問・ご意見をいただこうと思っております。どうぞよろしく申し上げます。では早速、議題(1)の現時点の人口動態等についてということで、事務局の方からご説明をお願いします。

(議題3(1)～(4)について事務局説明)

【議 長】

ありがとうございました。先程の(3)教育・保育の量の見込みと確保方策についての中間年の見直し案につきまして、に続きましてそれぞれの担当課の部分で、(4)地域子ども・子育て支援事業についての中間年の見直し案につきまして、も合わせて説明をいただきました。以上で事務局からのご説明が全て終わりましたので、委員の皆様方には今の中間年の見直しにつきましてのご説明と、それぞれのお立場からご質問、あるいはご意見ございましたら、忌憚なくご意見いただき、審議してまいりたいと思っております。委員の皆様、ご質問あるいはご意見ございますか。

【委 員】

保育所については、校区がないということなので、圏域ごとの見込み量について

は全体で把握するという事はずっとおうかがいしています。でも実際の親御さんの話を聞くと、やっぱり近いところに預けたい、車で運んでまで預けられない、ということたくさん聞きます。それは親の願いでもあり、やっぱり地域・校区を大事に思われていますので、親としては配慮して欲しいという思いだと思います。6圏域で分けてはありますが、待機児童の数について私が聞く限りでは40数名だと聞きます。実際の申込者数から入園児数を引くと、400人くらい入れてないということも聞きます。だから第1希望に入れなかったら待機児童にカウントされないとかいうことがあったと思います。4・5歳だけの場合、実際のいわゆる確保量が保育所の場合だと300人くらい増えています。幼稚園の方は600人くらい減っています。幼稚園と保育所の割合を考えたときに、保育の方のニーズが多いということが統計上見えますが、それはそういうことでしょうか。幼稚園のいわゆる3歳児の施設を増やしていくのを、止めようかという計画だと思います。これ以上増やす必要性はないということです。3歳だけではなく4・5歳も幼稚園を増やす必要がないという見込みだと思いますが、保育所はまだ未だに待機児童がいると聞きますので、減らさないという方向になっているのでしょうか。それとも地域ごとにきっちり計画があって、今日も民間の園長会、保育所の方も代表で来られていますけれども、そういうところで増やすことが出来るから方策として増えているのかというところが、市全体で見えにくいのではないかとことをずっと言っています。具体的な方策ができればまた説明していきますとのことですが、今の実際の見込みと言うか保育所といえどどうなのかを教えてくださいませんか。

【議長】

はい。わかりました。

【事務局】

保育所の部分では、当初の計画は31年度には量の見込みに対して確保が出来るという計画を立てていますが、今のところ、当初の確保策について、予定通りの確保は出来ていないのが現状です。ただし、今回の量の見込みの見直しについて、量の見込みを支給認定者数ということで出させていただきましたので、保育所に入所していないお子さんについても支給認定書を発行させていただいて数に入っておりますので、待機児童だけではなく、第1希望だけ希望され実際そこで入っておられない方も支給認定者数の中には入っておりますので、保育所の入所の申し込みをした人が全員入れるという形の計画になります。ただ、確保策につきましては民間保育園の方にもご協力いただき、分園とか増改築等お願いさせていただきまして、確保はさせていただいていますけれども、やはり圏域で見ると偏りが出てきていますのが現状であります。その辺の対策についても今後どうしていくべきなのかとい

うことも全体での確保方策も考えながら、それはまた次回以降の会議の方で報告させていただきます。委員の皆様にご意見をいただきたいと考えております。

【議 長】

はい。ありがとうございます。よろしいでしょうか。

【委 員】

委員の方々はその地域にどれくらい足りないかというのが多分分からないです。おそらく次の会議がいつになるのかということが分かりませんが、次は多分これだけ足りなかったという数が出てくると思います。でも施設があるとか、やっていただける民間保育園とか認定子ども園が実際あるのかとか、そういうことが平行して進められていってしまうと思います。今年度そういうことになると、今年に間に合わずに多分来年になります。確保策の計画はずっと進んでいて、公立保育所でいわゆる確保策をやるということでしたら市自ら動ける話にはなりますが、民間保育園さんをお願いするということは今から施設を作らないといけないとか、場所を探さないといけないとか、いろんなことがありますので、計画がまた先に走って行って、実際にまた後ろから追いかけていくみたいなことになりますので、これで実際、検証になるのかどうなのかが分からないです。私達一生懸命今年度話をして、今年度最後の時、じゃあこれだけ出来ますと断言してもらえるのかというと多分無理だと思っています。急激に出来ないと思っていますし。でも30年まで計画をするのだから、それこそ計画の見込みということなので、人口が減ったり子どもの数が減ったりということは重々分かっていますけれども、確定値と見込み値というのが、きちり出てくるのかというのが不安です。私個人的な思いで言えば、1人でも2人でも待機児童が出るということでしたら施設を作って欲しいです。もしくは施設に入れるようにしつらえて欲しいです。施設1個作れとは言いません。でもやっぱり入れるようにして欲しいというのが親の思いでもありますし、それが親の働き甲斐にも繋がっていくところです。そういうところがやっぱり無下にされていくということになりますと、それはあまり良くないことですし、やっぱり圏域ごとということですので。今6月ですよ。次の計画の数値が出てくるのは、実際いつになりますか。それとも事前にもらえますか。またここで1時間説明されてもすごくしんどいです。そういう数値を、実際本当に今お持ちなのか、それともまだこれからなのかというのを、事務局言っただけですすでしょうか。

【議 長】

いかがですか。

【事務局】

確定値というのは、実際のところはまだ持っておりません。当初計画の確保方策は持っていますが、これが果たして31年度まで確実に実行されるものかと言えば、委員おっしゃるとおり、見込み値でございますので、見込み値も見直しをかけて出来るだけ確定値までいくのか、全体を見ながら考えていかざるを得ないと考えております。今年度整備をしているところがあります。また来年度以降も、国の補助金をいただいて整備をする予定のところもありますので、そこについてはよっぽどのことがない限り、確定値として確保策の上乗せは出来ると考えております。その分以外につきましては実際量の見込みと確保策、どのくらい足りないのかを検討しながらどういう方策が必要なのか、例えば小規模事業所を作るべきなのか、いやいやそこまでしなくてもいいとか、その辺については、その方策も含めてこういうことをやっていく、確保していきますというのを次回会議にはご報告できたらと考えております。

【委員】

事務局を擁護するわけではありませんが、事業者側から少しお話しすると、待機児童とか全体で見ると確かに保護者の皆さんが分からないと思いますが、実際的には、保育で定員割れを起こしているところもあります。実際山手の方とかは0歳1歳、月が経たないと中々満杯にならないという現状もあります。都市部というか中心部ですね、そちらだとまだ待機とかあります。地域によって全く違うので事務局に出しなさいというのは中々難しいかも分かりませんが、今までの計画で最初、小規模保育事業、また分園というものを作ってという話ですが、小規模保育事業、3歳児からの受け入れを本園もしくは幼稚園にお願いすることになります。すると本園での受け皿の確保が3歳から出来なくなります。ですので、他市ではつい最近和泉市が、30年度31年度を目途に2園作ります。また堺市だと公立の幼稚園を全部こども園化しました。0・1・2歳の受け入れを増やすためにこども園化しました。このようにちょっと具体的な話があった方が、皆さんには分かりやすいのかなと私は思います。今幼稚園の方から、3歳児を基本的には止める予定になっていると説明がありました。昨年、自分のところだけですが、お兄ちゃんが公立の幼稚園さんを利用している3歳児だけで20人入れてくれませんか、という問い合わせがありました。これはどういう意味かわかりますか。圏域で1件ずつから始めているので、そこに兄弟がいたらそこへ行きたいのです。でもその小学校区以外の子どもお兄ちゃんが行っているから幼稚園さんに下の子ども入れて自分がパートに出ようという保護者が多いのです。ですので、その子ども達を思うと数字だけでは無理だと思います。子ども達の親からたくさん3歳で公立がダメだったから取ってくれませんか、という問い合わせがあります。これ何故そういう現象になるのかという

と、圏域 1 つずつしかないのでもそこへ集中するのです。兄弟が行くところは集中するので、そこはもう少し数字だけ見て止めます、足りてるから止めますという問題だけではないと感じていますので、もう少し掘り下げてしていただいた方がいいのかなと思います。この会議でじゃあ新園を作りましょうと、そういう場ではありません。費用もかかります。今後少子化になっていく上で、後に私らが 60、70 歳くらいになるときは本当の少子化が来ると思います。そのとき何園かつぶれてくると思います。でもそのときに一番手っ取り早いのは小規模を作っていた方が楽です。大きい建物を建てると市もお金を莫大に使わないといけなし、事業者側からしても小規模の方がいいです。しかし、3 歳からの受け皿がないので、もう少し公民協力して、岸和田市全体の子どものために何かできることを考えていった方がいいのではないかと思います。以上です。

【議 長】

はい。ありがとうございます。2 人からお話出たのは、圏域とか、そういう全体的なとらえ方をすると見えなくなってしまう部分がありますが、保育所と幼稚園の連携をしていくことにより、何かその細かい対応ができるかも知れないということがありました。

【事務局】

保育所の 2 歳の子を次の年の幼稚園の受け皿にという部分で、今回の見直しについては、28 年度の実際に行かれていますお子さんや抽選から漏れたお子さんを加味した上で割合を出させていただいております。30 年度につきまして量の見直しをさせていただき、29 年度の実態として定員割れを起こしている園があるということで、30 年度については見送らせていただいた上で 30 年度の募集にこれから入っていきますので状況を見ながらと考えているところです。完全にずっとゼロですよ、という話ではなく、それを検証しながらと考えております。小規模保育所に入られているお子さんの幼稚園の受け皿という、新しい、初めて出るような話かなというところです。保護者の希望もありますが、基本的に小規模保育園ということであれば、連携施設の本園でという認識が大きい部分がありましたので、それについてはこれから考える必要があると思います。

【議 長】

今の委員のご意見貴重だと思います。是非検討してもらいたいと思います。他にはどうでしょうか。

【委 員】

今の保育所の話と少しまた立場が変わっての話になります。この検証についてですけれども、公立が9園で今年度計画を見直すので一旦休止みたいな形になり、また30年度からは考え直すという形ですが、一旦休止という形になって、その数字的なものですが、一つ疑問なのは、これだけのすごい差が出てきたのは、ここに乖離の要因が書かれていますが何となくしっくりこないです。現場のある程度の考えとしては、最初からこのような結果になると思っていました。推計児童数を量の見込みとしたことによるというのが微妙に分かりにくいです。要するに推計児童数を見誤っていたのか、それとも推計児童数を量の見込みとすることが元々見誤っていたのか。実際3歳で行かせるのではなくて、やっぱり幼稚園とか行かせるわけではなく、お家で見る方が実際多かったのか、その辺りをお聞きしたいです。あとまた計画の時には、他市へ流出していた人が、3歳児保育を公立がすることによって呼び戻しがあるのかもしれないというお話もあったと思います。こういう大きな差になった要因はここに書かれていますが、実際に本当にどういうところでこんなに大きな差が出たのか、保育所にいる方と公立にいる方の配分が今言っているようにうまく読みきれなかったのか、そのあたりの検証の方法について、少しお尋ねしたいです。

【事務局】

検証の方法のところ、推計児童数の部分と量の見込みの部分でという2点のところ、推計児童数については元々人口予測状況で、将来の人口の差が出たということは1つにありますけれども、最初の当初の量の見込みの算出については二一調査の結果の数字プラス上乗せ分という説明をさせていただきましたが、その3歳以上につきましては、全員が希望して入れる受け皿を作ろうということで、量の方に、二一調査に含まれない方の分も上乗せで幼稚園希望、保育所希望という形で入れさせてもらっていました。実際に1号認定割合も出させてもらって、その二一調査に基づく調査結果と、今回、推計児童数を見直した部分で計算させてもらって、実態と変わりがない結果が出ております。ただ二一調査の割合とどういいますか、調査結果が現状を反映した結果になっているかなと考えております。家で子どもを見ているのかどうかという部分ですけれども、確かに数字に表れない二一も当然あるかと思っております。今回は実際に入っているお子さんの割合を出させていただきましたが、二一調査の結果を基に算出すると今回の1号認定割合よりも10人くらいは増える形にはなりません。調査結果とイコールくらいかなというところで、調査結果の部分が反映した結果になっています。上乗せ部分のところについて実際と計画の差が大きかったというところです。以上です。

【議長】

よろしいでしょうか。

【委員】

ありがとうございます。後、他市に流出した人が戻ってきたかどうかというのは分かりづらいところでしょうか。例えば和泉市に3歳の子どもが行っていたんだけど、公立がたくさん枠を広げたんで、じゃあ公立に行こうという他市の人数というのは同じようにやっぱり結構和泉市に流れてると思います。岸和田市の人数が年々どうなっているのかが分かるところはありますでしょうか。

【事務局】

他市に行かれてまして、岸和田に戻ってきたというところですね。その部分について把握はしてない状況です。ただ岸和田に住みながら、保護者が選んで市外の和泉市の認定こども園へ行くという場合もあるかと思いますが、年度ごとの、例えば市外の施設型給付施設の私立幼稚園や、私学助成施設の私立幼稚園に子どもが通っている数字上の確認は可能です。現在、市外の幼稚園に行っていて3歳を拡大したから次の年齢のときに、こっちに戻ってきたかという部分については、現状分からないところがあります。

【議長】

よろしいでしょうか。

【委員】

公立幼稚園の今後のあり方についてですが、隣の市の公立幼稚園と岸和田市の違いは、それは違いがあっていいとは思いますが、例えば貝塚市でしたら、1点は公私格差の保育料のところをやっぱり公立はもう少し私立に近づけてもらうことはできないのかなというところですね。後は公立の幼稚園はいくつか少ないクラスとか、クラスが空いているところ、人数が少ないところなどは認定こども園に、公立も変わってきているという市がありますし。ちょっとこれはどうなのかな、サービス低下になるのかなと思いますが、すごくやっぱり人数が少ないところは、貝塚市とかだったら今年は休園しますと言って、統廃合をするのだったらスクールバスをすとか、何かそういうふうに公立の幼稚園のいいところを残して、そんな形でもう少し公立幼稚園のあり方を少し考えていただけないかなということはあると思います。

【議長】

ありがとうございます。今おっしゃられた件について。

【事務局】

公私の格差、料金の部分を言われていると思いますけれども、これについても従前から言っている3歳児の教育、3歳児の保育の受け入れ、この計画全てが終わって、費用対効果などの部分を見ていく必要があるというところです。認定こども園の話もあったと思いますが、公立で認定こども園ということも現状では、それぞれ幼稚園での確保、保育所での確保、という計画で進んでいます。認定こども園化しますよということであれば当然、1号・2号・3号のところで、その話が出てくる形になりますので、現状の計画の中でもないというところでもあります。

【議長】

ありがとうございます。そうしましたら他ございますか。

【委員】

チビッコホームについて、資料14の策定時の見込み量、資料16が見直し案の総量ということで理解をしています。利用者数については1700人に下がりますが、低学年の利用はやっぱり多いという推計が出ていると思います。私が聞き及ぶ範囲では1ホーム50人が定員と聞いています。例えば中央であれば十分足りています。城内であれば、120人ということであれば2つのホームでは足りていなくて3つ目があるということなのか、30年までには3つ作るという方向をこの数字からは導けるということか、計画としてはこれから人数の上限を見てとか、募集の人数を見てとか、ということをお案して設置していくということだと思います。明らかに言うと、作るべき施設を作るのか、学校の施設の中を利用してチビッコをやるのか。多分新しい建物を建てても、今後人が減っていくと言っているのに無駄な費用をそこへ費やしていくということになりますので。私の子どもをチビッコに預けていた時は、確か施設の中で預けていたのが、新しく出来ましたので外へ出たということですので、私1年生の子どもも預けていた時は確か中だったはずで、それが外へ出たということは、実際、中でもチビッコは出来るという理解でいます。だから新しい建物をそのまま新しいまま作るのではなく、学校の中の施設として位置付けをしてあげる方が子どもがどこか外へ行って、歩いてどこか行かないといけないのは危険なことですし、行っている最中に事故しても誰も責任を取れないということですので、その辺からこの数値を31年度ずっと数値を見ていくと50以上で、50以下は1つとか、50以上で100未満は2個とかいう単純な数式に置き換える施設量という理解をしていいのか、それとも50人は1つ作るんだけど、20人やったら学校内の教室とかを利用してうまく利用をしてここでチビッコをやるんだよとするのかっていうのが、これから計画をしていく中で、建設費とかすごい高いはずなんで、それを人件費に回してもらって、施設の有効活

用とか人の活用ということを目指してもら方がいいと思うが、その辺の計画というのが実際どうなっているのかをを教えてください。

【議 長】

はい。ありがとうございます。

【事務局】

委員がおっしゃるように小学校の敷地内で余裕教室を活用させていただけるようにこれまで関係課と調整しながら進めてまいってきたところでございます。29年4月時点では38ホーム、24小学校区中23校区でチビッコホームございまして、複数施設もございまして、38ホームで運営をさせていただいているところです。校区別にお示ししていますように数値の中ではやはり施設の整備をさせていただいてもなお不足している校区ももちろんございますけれども、その点については今後、また関係課と調整しながら小学校の余裕教室の活用ということで施設面の調整がついたところから実施をさせていただければと考えているところでございます。以上でございます。

【議 長】

ありがとうございます。よろしいですか。

【委 員】

今日学校の教育委員会の方が来られています。実際はどうでしょうか。使おうという協議は進んでいて、その見込み量の中に含めていってもらえるという方向性を見出しているのでしょうか。やると決めたならばやる方向で進むでしょうけれど、まだ協議中と言えれば多分施設の数が増えていくことなのか、増えない、ダメということなのか、見えずらいところがあります。その辺は学校を管理されている側はどういう理解をされていますか。

【事務局】

今言われましたように基本的には学校内でという形では考えております。しかし、学校の使用状況によっては空き教室、余裕教室がない学校ということもございます。チビッコの児童数が増えてくるということはもちろん、学校内の生徒数も増えてきます。そういうところも多々ございます。そういった中で余裕教室がない、また学校によっては支援教室、支援学級が増えてきてそちらの方に取られていって空き教室がないということもございます。よって先程ご答弁させていただきましたように学校ごとによって、それぞれ個別の案内という形で検討させていただきたい

と考えております。以上でございます。

【委員】

一番始めの人口の推移からいくと子どもは減っている、と言われております。学校個別の課題であるというのでも理解しております。小学校の人数が増えたからといってチビッコの人数が比例して増えているのかという議論と、児童の少ない小学校だけれども、親御さんが共働きでチビッコに預けなければいけない事由があるということとはちょっと切り離して考えて欲しいなと思っております。空き教室があるかないかと言われるたら、私の子どもは今3年生ですけれど、残念ながら30人学級では無理で、クラスが3クラスあったのが2クラスになりました。ということは単純に言うと教室1個空いています。それが支援枠とか色々な専門教室に当てているということはあるでしょう。でも通常、3クラスであるところが2クラスに減ったりとか、逆に1クラスが2クラスに増えたり、学校で各々クラスが減ったり増えたりはするけれども子ども総人数は中々右肩上がりに増えてないのは事実だと思います。今それであれば学校管理課さんの方で、去年学校教室数が何個あって、今年何教室になったかと言ったときに明らかに増えてるということが言えるのでしょうか。その辺りが分からないのですよ。事務局側の皆さんは岸和田市全体のことを考えておられるという理解ですから、昔の児童育成課さんが学校さんと協議して一緒にやりましょうとチビッコ増やしましょうと学校の中に利用させてもらいましょうという投げかけをして、多分去年もそんな話をしたような感じがしますが、うまいこと事務局側として進んでいるのかというのがこの会議に上がってこないのです。うまいことやってくれていたらいいですけど、うまく伝わってこなくて、実際学校として利用できないということにしか聞こえてこないです。検討はしているけれども使えないということなのか。例えば逆に言うと、城内小学校で122人、50人ずつのチビッコをやってあと22人いますと。あと1施設作りますか、という議論になったら、空き教室1個でも頑張って作ってそこに入れる方を検討しましょうという議論になれば、個別の課題と言うのであれば、個別の課題で学校が利用できる施設はどれくらいあって、やっぱり新たに建てないといけない施設はどれくらいあるかということをお示ししていただければという理解でいいですよ。

【事務局】

それにつきましてはどこがどういう形で、余裕教室があるかどうかご提示させていただきたいと思っております。今言われました城内小学校というのは、基本的には推計がございまして。推計的にはまだプラス、増えるということで現在空き教室の部分が将来的にそれも全部埋まるというような予測も考えられております。また、それ以外のところでもまだ何校かは生徒数が増加するところもございまして。そういったところ

ろももう教室が足りないという状況になっていることをご承知おきください。以上でございます。

【委員】

学校さんの返答が少し冷たいのかなと感じるところです。私が行っているときは1学年6クラスか7クラスでした。今3クラスですよ。3×6、18クラス空いているはず。昔より支援学級やいろんな科目が増えて、必要な教室も分かりますが、今の返答だと、もし急激に小学校、クラス、生徒が増えましたというときに学校作りますか。そういうことです。今空き教室がないです、だと、市は生徒が増えたときに学校を作るということなのか。じゃあどうしよう、と考えると思います。学校がどうしようとするようにチビッコの子ども達のためにも考えて欲しいです。言いたいのは、ただそれだけです。難しいことを言っているのではないです。保護者の立場、一般の方の立場、役所の立場、市の仕事も分かっていますが、私も何でチビッコがないのか、と少し言ったことがあります。私達のとて、1年から6年まで1学年6・7クラスありました。ですが今、3クラスで6年までしかないのに、1個ぐらい余るでしょうという話です。でも今聞いている中では、部屋がないですという返答だと腑に落ちないというか、このまま増えたら岸和田市は学校を作るのか、という話になってきますので、そこはそのときに応じて、すごく考えると思います。今保育園がない、子どもの受け入れが出来ない状況と同じような感じで考えると思いますので、もう少し、放課後の子ども達のために学校の方も考えてあげて欲しい、ということが私の本音です。

【議長】

お気持ちは良く分かります。

【事務局】

ご意見よく分かりました。実際今年度から、城内は学校外から学校内へ入りました。外にありましたので中に入ったりしています。空き教室がないというのは、申し訳ないですけれども、一つ学校は教育現場であって、少人数学級であるとか、支援の子どもであるとか、教育現場で空いているように見えても、それ相応の時代で必要なものと、人数的に3クラスが2クラスになってしまいましたというのは、42になるか41になるかで2クラスになったり1クラスになったりする、その辺の微妙な人数の差があって、それを将来に渡って2クラスや、3クラスや、ずっと将来に渡って2クラスと見通せた時に空けますよとなります。来年1人増えて2人増えて1クラス増えてくる状況かわからない状況でそれをすぐさまというのはあります。冷たいわけじゃないです。見せていただいて、十分現場同士、意見交換

しながら対応していけたらと思っておりますので、是非ご理解よろしく申し上げます。

【議 長】

ご要望として検討をお願いします。

【委 員】

お話は十分分かりましたが、やっぱりこの会議にあげてもらうときには事務局の皆さんで話をしたいのです。学校と協力しながらやりたいと思っています。学校さんがやると決めたのだったら、進めますということだと思います。検討するということは一歩下がっていませんかというイメージです。実際、今新しい施設を作って、私達市民の税金を使ってまで多くの施設を作るとことはもうほぼほぼ無駄やと思います。今から潰していかないといけない時代がやってくるのだから。例えばチビッコが50人を30人にしますとか、小学校は今1年生30人ですよ、3年生になったら今30人学級をやっていませんけれども。3・4年とずっと上がっていくように、制度が変わることで教室が使えないとなるとというのは分かります。昨年度の学校の校長会の委員さんも、高学年になると女子達が更衣室として1部屋を作らないといけないんだという意見がありました。それは十分理解しています。そういうことを全てやっていく中で、やっぱりまだ教室として余裕の余裕があるのだよということが、各学校でどれくらいあるかというのが分からないのです。ですので、そういうことも含めて、こういう子ども・子育て会議の場で、学校の中の利用をしたいという私達の思いがあったときに、各々の案件ですと、個別の案件ですと分かりますので、今チビッコホームでどうも定数が伸びそうやと、待機児童が出そうやというような施設が見えてくるはずですよ。まだ伸びそうだから、ここの施設は気をつけて配慮しとかなないと、という施設があるはずなので、その辺を見越して、もう建てるのが無理ならば学校さんと協力しながら施設を有効活用したいということです。その辺を要望ということで、もうお答えをいただくつもりはありません。要望として言うておきますので、是非とも次の会議までにはそういうことも含めてご提示をいただければと思っておりますのでお願いします。

【議 長】

ありがとうございます。他にはございますか。

【委 員】

先程もお話の中で言うていただきましたが、ちょっと私は認識的に分からないので、今後、市として認定こども園をどのように持っていつてくれるのかということ

をお聞きしたいと思います。

【議 長】

今さっき考えておられないと。

【委 員】

さっきそう言っていましたけど、私としては考えて行って欲しいなど。

【議 長】

ちょっとそういうご意見出ましたが、どうでしょう。

【事務局】

今、子ども・子育て支援計画、この5年計画上では先程、課長がその方針がないと説明しましたので、この範囲内では当然待機児童が発生しないように。その後です。どうするかというのは。

【委 員】

今後、どのように考えてもらえるのか。今は考えてないというのは先程お聞きしましたが、この後どうしても考えていてもらいたいなと思ひまして。

【事務局】

今、その要望があると伺いましたので、この計画は計画5年間ということで。この後作る計画では要望としていただきます。

【委 員】

何でも早めに言っておかないと。すみません。

【議 長】

はい。ありがとうございます。他ございますか。

【委 員】

私も先程言ったようにここは何を言うべきところなのかなと時々悩む時があって、強くは主張していないのですが、やはりその在り方を考えて行って欲しいです。言っても終わってしまい、残念な会議だということも感じています。もうひとつは最近、保育士がすごく集めにくくなっていて、教育の質の低下が皆さん巷でお聞きになっていると思いますが、実際問題として、この前も新聞にも出ていましたけれ

ども、ハローワークにお願いしてもいない。学校にお願いしても来てくれない。基本的にはお給料が安いのが1番の問題かもしれないですけども、そういった方はお給料の高いところに人が行ってしまう。最近では「保育士紹介しますよ」というファックスがどんどん流れてきて、そんなビジネスがはやってしまっていて、国はたくさんの施設を作ろうというところに保育の質の低下が出てきているのかなと思います。保育士も集められなくなっていて、準備金として今いくら出せばとか、お祝い金とか準備金、他市ではよく聞きます。何かおかしくなっている感じがします。保育所とか公立幼稚園とか募集をかけて、そんな中で公的な保育士バンクを作ってもらって、こっちにも紹介してもらえないのかなということのを要望として言っておきます。以上です。

【議 長】

ありがとうございます。保育士の確保、大事なことですから是非受け止めていただいて。他はございませんか。

【委 員】

私もここで言っているのかわからないままいつも座っているのですが、先程、チビッコで量の話ばかり出ていましたが、私、質の話が気になりまして。質のことが全然ここではわかりません。ここの数字を見ても量の見込みのところでは高学年のことが、やっぱり安全・安心で放課後いられるのがチビッコのいいところだと思いますけれども、量の見込みのところでは30年度31年度、高学年がガタッと減っていて、今まで3年生までだったのがやっぱり、6年生までというところでやっぱり質を高めていかないと。5年生6年生くらいになったら私の知っている人のお孫さんでもやっとなら行っているということです。それは親に、おばあちゃんに行けって言われて行っている。でもなかなか行かない。でもやっぱり高学年でも行けるようなチビッコになって欲しい。今チビッコに来ることができていてもそういう空間ができたらいいなと、かねがね思っています。そういうことを言っているか悪いか分からないのですけれども。やっぱり量だけではなく、質を私は希望します。チビッコは自分では関係ないのですけれども、岸和田市としてまちづくりの中で、安全・安心というところで、そういう質のところを希望したいなと思います。いいのか悪いのかかわからないけど一言言わせていただきました。

【議 長】

貴重なご意見だと思います。

【事務局】

委員おっしゃるように質のところが大事にはなってくると思いますが、チビッコホームの方では毎日の宿題や自由遊び、本読み等の基本的な生活習慣を身に付けるようにということだけではなく、季節に応じた工作や行事といったようなものを取り入れて、また人形劇等を観賞するなど各ホームで取り組みにつつまして、支援員相互に情報を交換したり、運営の工夫をしているところでございます。また、支援員につつましては接遇とか食物アレルギーまた子どもの遊び、子どもの虐待対応、子どもの安全対策、緊急時対応等の研修も実施して支援員自体の質も高めるといふような取り組みをしているところでございます。以上でございます。

【議 長】

ありがとうございました。委員がおっしゃいましたように高学年になっても行きたいというようなチビッコホームにしていだきたいと思います。

【委 員】

前回の会議の時に保育士さんがすごく足りないというお話でしたが、知り合いの元保育士の方が、そういう話をしたときに、そういうことはないよ、保育士の資格を持っている人はたくさんいるけれど、やっぱり仕事と見合うだけのものが得られないというところで申し込まないということがありますので、お給料体系とかそういうことを考えていだきたいと思います。

【議 長】

貴重なご意見ですね。確かにおっしゃるように保育士の資格を持ちながら働いていない方もたくさんいると思います。他はどうでしょうか。

【委 員】

先程お話の中で平成30年度の3歳児の募集は行わないという方針を立てられたということですがけれども、実際待機児童のとらえ方という部分で、実際に市立の幼稚園にいられている保護者の方は幼稚園にお子さんを入れてから働きたいとおっしゃる方もおられます。それとやはり近くの幼稚園に預けたいというところがございますので、実際には行きたいところがないから行けないという保護者の方、あるいは今どんどん3歳児の計画、これも市民の方に示されておりましたので、次年度は本園かなというふうに楽しみに待っておられる保護者の方もおられるというところで状況を見ながらお考えいだきたいというふうに要望しておきたいと思えます。以上です。

【議 長】

ご意見ありがとうございます。公立幼稚園の保護者の方の思いを受けて是非ご検討ください。他にございますか。

【委員】

兄弟で違う保育所へ入らざるを得なくて、2箇所送っているお母さんがすごく大変そうなのですけれども、そういうのも何とか解消していただければありがたいなと思います。

【議長】

ありがとうございます。ご要望として受け止めてください。

【議長】

他にございますか。よろしいでしょうか。時間が迫ってまいりましたので、貴重なご意見たくさんいただきましたが、それを踏まえてまた次回のご提案の際には反映していただきたいと思います。以上で（１）から（４）の審議を終わらせていただいてよろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。

では最後に（５）その他につきまして、事務局から説明をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

【事務局】

議案の（１）から（４）につきまして、ご意見ありがとうございました。次回の会議ではこれを受けて更に進めてまいりたいと思ひます。

日程の件でございますが、９月２６日（火）１４時からということで調整をお願いできたらと思ひております。説明は以上です。

【議長】

次回が９月２６日（火）１４時からということで委員の皆様、ご予定をお願いいたします。以上で予定しておりました議案は全て終わりました。委員のみなさま方、ご協力ありがとうございました。これにて第１１回岸和田市子ども・子育て会議閉会とさせていただきます。ありがとうございました。